

道立高等学校長庁内公募（中間・**期末**）報告

学校(所属)名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道当別高等学校	校長	保格秀規	56	令和5年4月1日
<p>1 これまで取り組んできた改革</p> <p>(1) 北海道 CLASS プロジェクト活動内容の改善（探究のプロセスを見直し） 旧) これまでの2年間は、生徒が校内外の大人からレクチャーを受け、感想を書く。 新) 2・3年生が地域の会社やイベントの問題解決・運営に参画・提案し、活動の振り返り実施。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を図る教育活動を、組織的な実践へ改善（学び直しの指導見直し） 旧) 教務部が教科担任任せで実施を呼びかけ、年度末の学習状況調査でその成果を見る。 新) ベネッセ Classi をお試し導入。週末課題として生徒80%が2学期の1ヶ月取組んだ。長期休業中には30%まで低下した。令和6年度より正式に導入し、継続的に家庭学習支援を行う。</p> <p>(3) 朝の打ち合わせ・職員会議の資料を完全ペーパーレス化、サーバーの積極活用 校内サーバー・クラウドでの資料整理や日報へリンクを貼り、容易に事前に資料確認ができる。 Google ドライブや S ドライブへの移行を組織的に実施し、利用方法の校内研修を実施した。</p> <p>(4) 朝打ち合わせを週2回(月・木)とし、日報記載で説明を簡略化。学年打ち合わせを充実させた。</p> <p>(5) 生徒の悩みを「嫌な思い」として、組織的にいじめ防止委員会で検討と対応の仕方を変更させた。 これまで学年・担任で抱えていた対応を、組織的検討により意見やアイデアが広がり対応策の幅が広がり、解決が早まった。結果本年度の転退学者は6名（前年比70%減）であった。</p> <p>(6) 学校 HP の変更とインスタグラムの開設 スマートフォンの閲覧を意識した HP デザインへ変更。行事等を SNS で掲載し、更新速度向上。</p> <p>(7) 校長通信で経営の情報共有と国・道教委の通知等を解説（職員会議の研修機能を活用）</p> <p>2 進捗状況及び成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5カ年計画からの1年目 Plan&Do（校内・校外体制の準備・実行の年） ① スクール・ポリシー・教育課程検証と見直し →楽しく学ぶ、コース制設定、適正を興味へプロジェクトチーム組織→課題解決委員会でアセスメント（SWOT分析）、学校未来構想策定。教育課程・推薦入試・総合探究の見直し →次年度1年生総合探究2単位でキャリア育成強化。授業・評価の改善 →観点別評価の運用と実施の上で妥当性の検証を行った。日課や内規・校則の見直し →生徒中心のルールメイキングチームを組織し検討に入った。BYOD 選定機種の見直し →2年間購入させていなかったが、本年度から3OSで業者を斡旋した。ICT教材の選定 →デジタルドリル（Classi他）の比較研修・3カ月試用実施と評価で選定した。ICT教員研修の推進 →担当教諭を道外視察へ派遣。Google ミニ研修会を定例で開催した。 ② コンソーシアムに当別町・当別町商工会・上級学校・同窓会等の人材バンクを構築 →次年度コミュニティ・スクール導入に向けた準備会議をこれまで6回開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道 CLASS プロジェクトのコーディネーターを積極活用し、人材発掘できた。 ・当別商工会議所と連携協定締結（現3年生が商工会10社の課題解決に参画、成果発表） ・北大大学院環境科学院 山中康裕教授、北海道科学大学全学共通教育部 出口寿久教授、北大大学院教育学院 篠原岳司准教授、北海道教育大学 佐藤正範特任講師、北海道医療大学薬学部 浜上尚也教授 から助言を基に組織化を図った。 ・企業の支援（当別町商工会・亜麻公社・ミツハシライス・ロイズ・スマイルポーク等） →『粘議場』を教材開発し、生徒と協働する企業・個人の連携を創出。生徒の探究学習が実感を伴う学びとなり、キャリア意識が高まった成果を上げた。 <p>3 課題及び解決に向けた方策</p> <p>(1) 当別町長と町教委は設置者の道教委が本校の配置計画を先に示すことの要望がある。高校へ当別町商工会から地域連携コーディネーターの配置をいただき、地学協働学習の成果の継続を図る。 →今後は自治体とも協議・検討する。</p> <p>(2) ICT教材導入経費の創出。（札幌通学生は家計が厳しい中に毎月1万円程度の通学費用負担） →PTA会費・生徒会費・体文後援会費を見直し、徴収金額を変えずに支出を調整・調達した。</p> <p>(3) 教職員の意識改革（初任者と50代の2分布に分かれる意識のずれ）のため、積極的な人事交流（定年延長による異動と中堅教員の配置のお願い）を図る。 人事評価面談の対話で教員育成指標やWLBの自覚を促し、主体的な研修を奨励する。 専門学科の運営転換（園芸デザイン科は6次産業化へ、家政科は地域生活科へ）</p> <p>(4) 学校存続に向けた生徒募集（本校と他校の違いを明確にした情報発信） →中学校訪問と中学生説明会に積極参加。HPとSNSの発信。マスコミ等の活用。</p> <p>4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定</p> <p>(1) 令和6年度コミュニティ・スクール導入。（5月会議で経営方針の熟議と承認から始動）</p> <p>(2) 北海道 CLASS プロジェクト推進校成果をまとめ、今後の学校訪問の受け入れ体制を構築する。</p> <p>(3) 令和6年度高校入試出願者は前年比150%増80名（当別町生徒前年比150%増16名）。 生徒募集は更に新たな取り組みを着手する。（募集のチラシや紹介動画の制作を本校生徒の探究学習で推進）</p> <p>(4) 校務分掌の再編（4分掌→3分掌6担当）を個業と協働で業務の平準化の観点で進め、今後は全体の業務・行事の精選に着手して全業務量の見直しを引き続き検証する。</p>				